

平成31年度「教育部の方針」

■互いの生命と人格・人権を尊重し、地域や社会に貢献する意識の醸成

▽夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力や社会参画の力を育成するという新たな国の目標を見据えて、第3期粕江市教育振興基本計画を策定します。

▽学校経営方針のもと、学校が主体性をもって、ハイパーQ U調査の活用を通じて保護者との連携を深める等、教員の学級経営力の向上を図ります。また、教育委員会と学校がより連携できる体制づくりにより、いじめの未然防止や体罰等の根絶の実効性を高めます。

▽教育研究所の教育支援センターへの移行・整備を進め、不登校等の様々な問題行動の未然防止に向け、学校並びに関係機関との連携のもと、課題を抱える児童・生徒の支援及び相談体制を充実します。

■確かな学力の定着と個々の能力や創造力を伸ばし、郷土や国を愛する心をはぐむ学校教育の充実

▽分かる授業・魅力ある授業の実現のため、タブレット端末等ICT機器の利活用を促し、教員の指導力や授業の質的向上を図ります。また、人型ロボットによるプログラミング教育や外国語教育の前倒し実施、新たな教育課程への挑戦等、新学習指導要領に即した学習にも取り組みます。

▽小中連携の「かけはしプロジェクト」を生かした、小・中学校の9年間を見通した教育の充実と、都立粕江高校との連携を生かしたキャリア教育を推進します。

▽特別な支援が必要な児童・生徒に適切な教育の場を提供するため、きめ細かな就学相談と小・中学校での特別支援教室事業を実践するとともに、中学校での情緒障がい学級の展開も視野に入れ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を充実します。

■すべての世代にわたる市民のための学習環境と運動環境の整備

▽学校支援地域本部及び市民活動支援センターとの連携のもと、学校の教育活動を地域が一体となって支援し、幅広い市民の力を生かしながら子どもを育てていきます。また、その一助となるよう、教育広報誌ガク☆チキの充実にも努めます。

▽市民が自由に自ら学び、文化やスポーツに親しむことができる環境の整備を進め、地域の教育力を向上させるとともに、郷土の伝統・文化の継承や市民による文化活動の活性化を図り、新しい地域文化の創造に努めます。

▽施設上の課題や制約がある中においても、市民サービスの向上及びにぎわいの創出を図るとともに、図書館と公民館の連携を核とし、市民活動支援センターとも協働して、市民の学びと豊かな学習機会の充実を図ります。

■東京2020大会等に向けたスポーツ、歴史・文化遺産に触れる機会の提供

▽東京2020大会等（東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019）の気運の醸成とスポーツの振興を図るために、スキルアップ事業の展開、障がい者スポーツ体験・普及事業に取り組むことにより、新たなスポーツの裾野を広げつつ、市民がスポーツに親しむ機会を増やします。

▽東京2020大会等の観戦学習に向け、子どもたちが外国語や外国文化に親しむ等、共生社会への理解を深めるとともに国際感覚豊かな人財の育成に努めます。

▽猪方小川塚古墳公園の整備を機に、古民家園の活用、散策ルートの策定、説明板の設置等歴史遺産を活用したまちづくりを進め、市内の郷土意識の高揚を図るとともに、東京2020大会等に向けた粕江市のシティセールスを担っていきます。

■オールこまえて「学校の働き方改革」を推進

▽学校が子どもの学力・体力の向上や、豊かな心の育成等にこれまで以上に正対できるよう、「学校の働き方改革プラン」の確実な実行により生み出された時間を、児童・生徒と過ごしたり、授業準備に充てる等、子どもと向き合う時間として生かします。

▽教員一人ひとりの勤務時間の把握を行うとともに、学校が担ってきた役割や業務を見直し、地域、保護者及び教育委員会と協働する新しい時代の教育に向けた体制並びに環境をともにつくっていきます。